

株主のみなさまへ

第25期中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

株式会社トランスジェニック

証券コード 2342



一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして



株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、第25期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。
当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを目指しております。

当社は、各事業の事業特性に応じた最適な運営体制を構築し機動性の向上を図るために、純粋持株会社体制で事業の管理・運営を行っております。

第25期におきましては、本年1月1日に実行した株式会社ジェネティックラボの全株式譲渡により獲得した経営資源(資金)を、当社創薬支援事業のコア事業であるCRO事業と、短期間での実績を獲得してきた投資コンサルティング事業とに対して、迅速かつ集中的に投下し、事業成長を加速させることに注力して参りました。

この結果、第25期上半期の業績については、第24期上半期において新型コロナウイルス感染症の急拡大を受けてPCR受託検査数を大幅に伸ばした株式会社ジェネティックラボが当社グループから離脱した影響により、表面的には減収減益となりましたが、当該特殊要因を除く第25期上半期業績は、過去最高数値を更新することが出来ました。

今後も引き続き、当社グループは経営資源を有効活用し、持続的企業価値の成長と拡大の早期実現と、各グループ会社間でのシナジー最大化及び成長戦略の実現に向かって、邁進する所存です。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2022年12月
代表取締役社長 福永健司

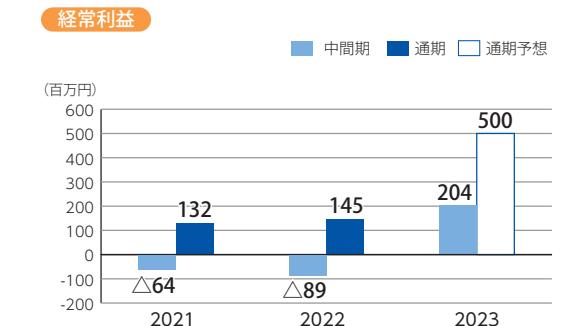
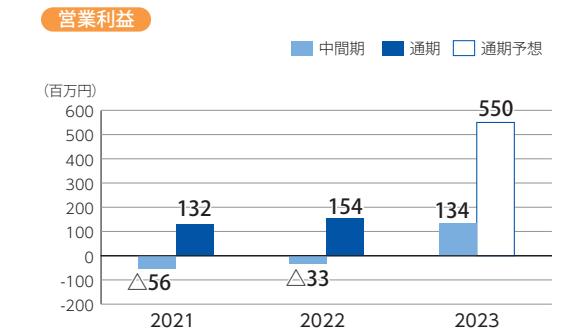
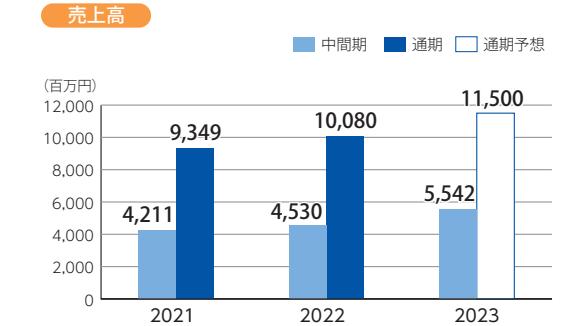
当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に対するワクチン接種普及等により、一部経済回復の動きもありましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大や、進行する円安及び世界情勢の悪化等による急激な原材料費の上昇など、依然として先行き不透明な状況が継続しています。

このような中で、当社グループの売上は、創薬支援事業において、2022年1月における株式会社ジェネティックラボの全株式の譲渡によるPCR検査の受託売上の減少という特殊要因はありましたが、一方で、豊富な受注実績を背景に主力の非臨床試験分野での売上は順調に推移いたしました。

また、投資・コンサルティング事業においては、第24期にグループに加入した子会社の売上が貢献し増収となったものの、急激な円安の進行などが海外からの調達が必要であるグループ会社の利益を圧迫する原因となりました。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を変更し、従来の「TGBS事業」を「投資・コンサルティング事業」としております。

これらの結果、第25期第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は5,542百万円となりました。これは、主としてPCR検査の受託を行っていた診断解析事業の譲渡という特殊要因を除いて比較しますと、診断解析事業を除いた前年同期売上高に対して22.3%の増加となりました。また、営業利益につきましても134百万円、経常利益につきましても204百万円となり、診断解析事業を除いた前年同期の営業損失33百万円、経常損失89百万円からそれぞれ大幅な増加となりました。

◆ 診断解析事業を除く業績の推移



事業概要及び特徴

創薬である遺伝子改変事業を起点として、創薬の初期段階である探索基礎研究・創薬研究から、非臨床試験、臨床試験まで創薬のあらゆるステージに対応できるシームレスなサービスを提供

研究所名	神戸研究所	安評センター磐田研究所	新薬リサーチセンター中央研究所
所在地	兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-14	静岡県磐田市塩新田582-2	北海道恵庭市戸磯452-1
所属会社	(株)安評センター (株)新薬リサーチセンター 医化学創薬(株)	(株)安評センター	(株)新薬リサーチセンター 医化学創薬(株) (2022年10月移転)
機能・特徴	遺伝子改変事業・大動物薬理薬効試験を実施	小動物～大動物に加え、水生動物・昆虫・水草まで網羅した安全性試験・遺伝毒性試験・環境毒性試験を実施	小動物薬理薬効試験、医薬・食品臨床試験を実施
施設認証	JAPIC認証※1施設 	AAALAC※2完全認証施設 GLP※3認証施設 	GLP認証施設 JAPIC認証施設 

※1 JAPIC認証: JAPIC認証とは、一般財団法人日本医薬情報センター(Japan Pharmaceutical Information Center)が、動物実験実施機関における「動物愛護管理法」及び「飼養保管基準」並びに各省の定める「基本指針」に従い、動物実験等の自主管理の促進とともに動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験等が実施されているかを検証し、認証するものです。

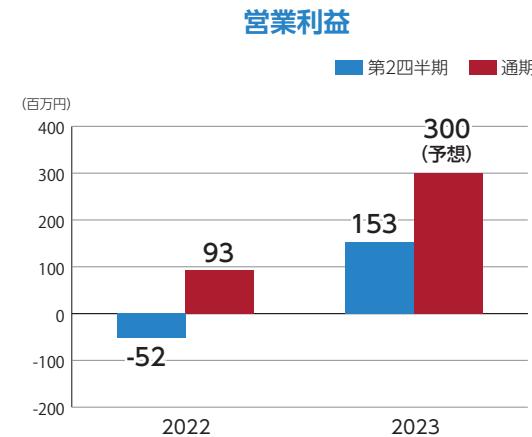
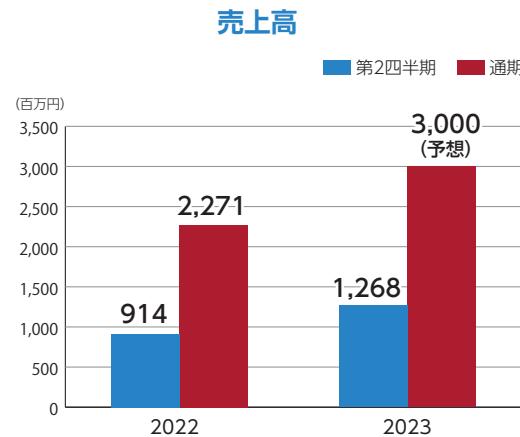
※2 AAALAC(The Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care International/国際実験動物ケア評価認証協会): AAALACは、世界で唯一の国際的な第三者評価機関で、3R(Reduction:使用する動物数の削減、Replacement:代替の実験方法、Refinement:動物の苦痛軽減)の原則を踏まえ、科学社会における動物の人道的な取り扱いを推進しています。世界中の医薬品及びバイオ技術企業、研究機関等がこの認証を取得しており、動物実験及び動物管理が倫理的に実施されていることの実証として認められています。

※3 GLP(Good Laboratory Practice): GLPとは、非臨床試験において、試験施設(場所)の設備・機器、組織・職員、検査・手順・結果等が、安全かつ適切であることを保証する「優良試験所規範(基準)」です。

業績概要

※診断解析事業を除く

上半期: 遺伝子関連技術に強みを持つCRO事業は着実に事業拡大を続けており売上高は前年同期比で38.7%の増収、営業利益は206百万円の増益
 下半期: 引き続きCRO事業への設備・人員投資の継続、新規技術開発・導入を積極的に行いオンリーワンの創薬支援事業グループ構築に邁進



新たな取り組み

次世代創薬スクリーニング技術として期待されているトランスジェニックゼブラフィッシュ(以下、「TGZF」)の開発及び事業展開を目的に、(株)安評センター(以下、「BSRC」)が、(株)MZTと業務提携契約を締結するとともに、(株)アンジェス(以下、「AnGes」)と共同研究開発契約を締結

	強み・特徴	提携目的
	<ul style="list-style-type: none"> ●ゼブラフィッシュを用いたヒト疾患モデル等に関連した三重大学特許の非独占的通常実施権を保有 ●次世代薬物スクリーニング技術として注目されている多数の透明TGZFを開発し、医薬品開発や機能性食品開発及び環境安全性管理にTGZF創薬技術として提供 	<p>高い成長が期待されるTGZFを用いた創薬支援市場に参入し、国内唯一のサービスを他社に先駆け提供することで、リーディングカンパニーを目指す</p> <p>※ゼブラフィッシュは、ヒトとの疾患ゲノム類似性が約80%など、人への外挿性が高く、スクリーニングが簡便なことから需要が高まっており、TGZFモデルは薬剤に対する反応性の確認に有効であると期待されています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●トランスジェニック(遺伝子改変)技術を保有 ●TGZF等の水生生物を用いた農業の登録申請に必要な環境毒性試験が実施可能な数少ない国内CROであり、評価技術を既に構築し高い受託実績を保有 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●BSRCは炎症性刺激によるGFP発現、及び薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発 ●AnGesは開発候補の薬剤及び炎症に関連する既市販薬剤を投与しTGZFモデルの有用性を検証 	<p>開発目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ●BSRCは確立したTGZFモデルを用いて次世代創薬スクリーニングサービスを広く展開 ●AnGesは開発候補薬剤のスクリーニングが、いち早く可能となり創薬研究開発を加速

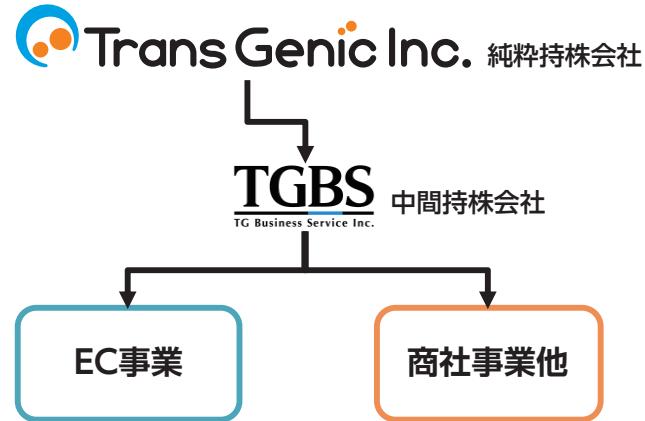


※ Global Information "ゼブラフィッシュの世界市場(2022年)"引用



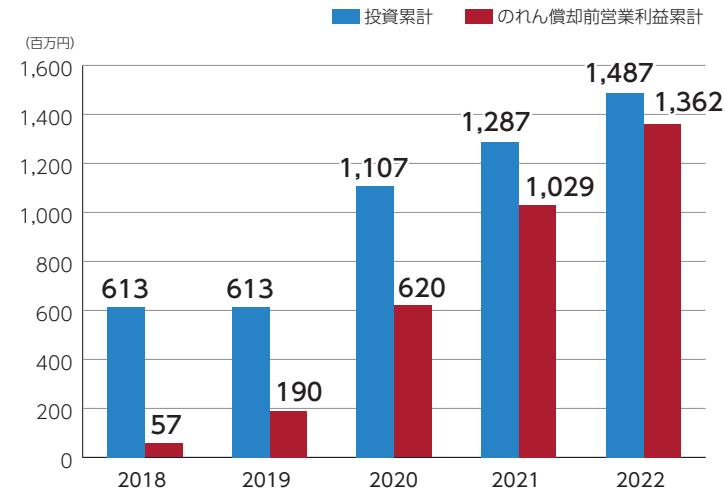
事業概要及び特徴

M&Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援及び投資を実行。事業承継案件を対象に、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資要件として、当上半期時点で主要6社に投資を実行し事業運営



EC事業	家電製品全般や、主にヨーロッパから輸入した食器、雑貨等をECサイトで販売を行う2社で構成
商社事業他	最先端の硝子専門加工機器及び関連する資材・消耗品の輸入販売から設置までを取り扱う専門商社や、海外純正品のトナーの輸入卸・加工・販売及びリサイクルトナー用部材の卸販売を行う商社等、主に4社で構成

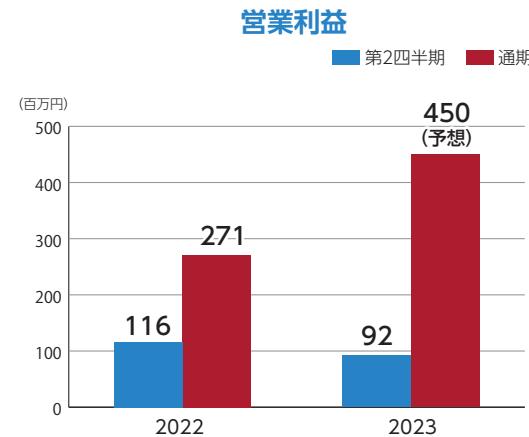
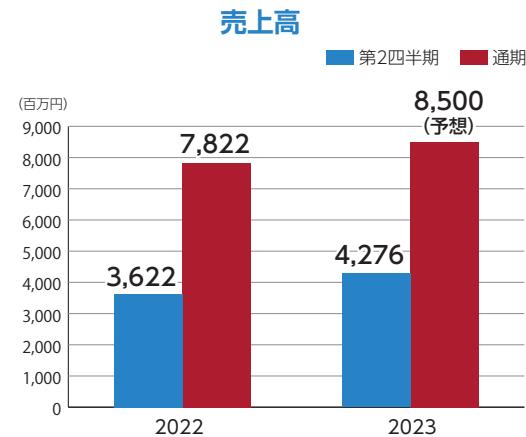
投資・回収実績



M&A市場が拡大している事業承継案件を対象に、ここまで、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資条件として投資を実行。今後も、投資回収状況、グループの財務状況を見て投資を継続し事業拡大を図る方針。

業績概要

上半期：売上高は商社事業の復調により前年同期比で増収となるも、世界的な物価高、円安を背景に、輸入販売を主とするEC事業、商社事業の仕入価格が上昇し減益
 下半期：下半期も物価及び為替動向を注視し、価格転嫁、新規商材導入を進め業績確保に注力

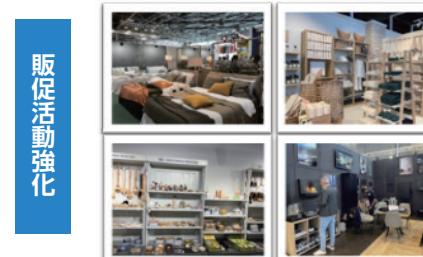


営業活動・輸出事業



MAISON&OBJET PARIS

(メゾン・エ・オブジェ) フランス パリ 9月



コロナ禍で渡航が制限されていた海外展示会へ2年ぶりに参加

The 41st JAPANTEX 2022 INTERIOR TREND SHOW

(ジャパントテックス) 東京 10月



東京ビッグサイトで開催されたインテリア展示会に壁紙等を出品

販促活動強化

輸出事業強化

IRON HORSE (アイアンホース) 輸出用リキュール



ブランド強化

Scandinavia®



会社概要 2022年9月30日現在

会社名 株式会社トランスジェニック
設立 1998年4月
資本金 50百万円
従業員数 6名(単体) 220名(連結)
事業所
本社 福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
東京オフィス 東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員
代表取締役社長 福永 健司 常勤監査役 友永 良二
取締役 北島 俊一 監査役 佐藤 貴夫
取締役 船橋 泰 監査役 本坊 正文
取締役 渡部 一夫
取締役 山村 研一
社外取締役 清藤 勉
社外取締役 斎藤 穂高

株式の状況 2022年9月30日現在

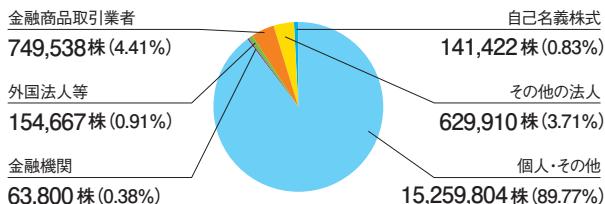
発行可能株式総数 43,630,100株
発行済株式の総数 16,999,141株
株主数 12,879名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社SBI証券	373,300	2.21
藤井 正樹	173,000	1.02
株式会社ムトウ	160,200	0.95
株式会社リムジンインタナショナル	152,900	0.90
原田 育生	150,000	0.89
福永 健司	145,000	0.86
水越 敦	136,900	0.81
山崎 学	120,700	0.71
平川 徹	103,300	0.61
楽天証券株式会社	101,800	0.60

(注) 1. 当社は、自己株式を141,422株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式(141,422株)を控除して計算しております。

所有者別株主分布状況



株主メモ

証券コード 2342
上場市場 東京証券取引所 グロース市場
上場年月日 2002年12月10日
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<https://www.transgenic.co.jp/>



当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております

ir@transgenic.co.jp